

(公立みつぎ総合病院)

平成 30 年度尾道市新公立病院改革プラン
目標達成に向けた具体的な取組の実施状況

1. 民間的経営手法の導入

① 人事考課の継続

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
既に導入済みの人事考課制度（賞与と昇給に反映）を、職員の意識を高め、人材育成につなげるため継続して取り組む。	人事考課の結果を職員にフィードバックし、職員の意識を高め、人材育成につなげている。

2. 事業規模・事業形態の見直し

① 新入院患者数の維持

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
毎月 225 人以上の新入院患者を確保する。	新入院患者数 208.3 人／月

② 入院患者に合わせた効率的な病棟運営

③ 回復期リハビリテーション機能の強化（病床機能の転換）

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
急性期一般病床を回復期リハビリテーションへ病床機能の転換を図る。	平成 29 年度に急性期一般病床の一部（7 床）を回復期リハビリテーションへ病床機能の転換を図り、平成 30 年度から運用を開始した。

3. 経費削減・抑制対策

① 人件費の削減対策

ア 職種別給料体系の継続

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
既に導入済みの医療職（1）（2）（3）、福祉職、行政職の 5 つの給料表の職種別給料体系の継続を図る。	職種別給料体系を維持している。

イ 常勤医師の確保

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
非常勤医師の給与は常勤医師に比して高く、給与費抑制のためにも常勤医師の確保を図る。	平成 30 年度末医師数 21 人（前年度末 23 人） 平成 29 年度末に医師 2 名が定年退職となったが嘱託常勤医師への移行で体制を維持した。

(公立みつぎ総合病院)

②経費削減対策

ア 医療機器等購入における経費削減

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
医療機器等の購入に際し、情報収集に努め、保守費用等も考慮し、総合的に安価な価格での購入に努める。	当院の規模や使用状況に応じた機器・機種の設定に努めた。また、定例的な保守費用が必要な機器はメーカーの統一やリース対応も踏まえ安価な購入となるよう努めた。

イ 委託業務内容の見直し

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
委託費の業務内容の見直し・変更などから価格の見直しを検討する。	現状の業務内容に合わせた委託費の契約価格の見直しなど継続して行った。

ウ 光熱水費（電気料金）削減

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
照明器具のLED化を全施設対象に検討する。	病院照明器具LED化（平成 30 年 1 月完了）による省電力化と電力会社との契約見直し等によって電気料金が前年度費用額を下回った。保健福祉総合施設については、経営状況を勘案しながら検討していく。

4. 収入増加・確保対策

① 診療収入確保項目

ア 一件一日当り診療収益

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
平成 30 年度 目標	平成 30 年度 結果
入院 33,150 円	入院 33,810 円
外来 8,260 円	外来 8,364 円

(公立みつぎ総合病院)

イ DPC/PDPS での増収対策

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
医療機能評価係数の増点を図るとともに、コーディングの適正化に取り組み、医療の質の向上・効率的な経営を図る。	コーディングの適正化に取り組み、医療の質の向上・効率的な経営に努めた。

ウ レセプト点検の充実及び請求漏れの対策の強化

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
効果的・効率的な診療報酬の請求事務を進めるとともに、専門的な知識の習得や向上に努め、請求漏れや査定減などの改善を図る。	継続して診療報酬請求漏れのチェックを行った。

エ クリニカルパスの徹底

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
クリニカルパス（医療の効率化）の適応件数の増加を図り、医療の効率化をさらに徹底し、診療収入の適正化に努める。	継続してクリニカルパス（医療の効率化）の徹底に努めた。

オ 未収対策の強化

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
初期段階の未納者対策を強化し、未収金の減少に努める。	電話督促、訪問徴収など継続して行った。 平成 21 年 5 月クレジット払導入済み。

② 医師確保対策

プラン	点検（平成 30 年度取組状況）
医師の確保を図るとともに、臨床研修医の確保に努める。	医師確保については厳しい状況にあるが、尾道市や県と連携しての医師確保への取り組み、奨学金による医師確保や地域枠医師の派遣要請など引き続き努力する。